

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園

1－1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは充実した設備と情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にしたい教育を目指しています。

1－2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人の資質や指導力の向上、保育内容の充実と資質向上を目指すとともに、養成校としての役割と使命を持つ。
 - ① 定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ② 大学と連携した教育活動を展開し、保育内容の充実と資質向上を目指す。
 - ③ 実習に来る学生一人一人に寄り添い、指導・育成を行う。
 - ④ 研修への参加や年度末に自己評価を行うなど教員の資質の向上を目指す。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ① 園児の健康観察及び予防に努める
 - ② 園全体における感染症対策の徹底
 - ③ 園全体における安全対策の徹底
- 3 地域の子育て支援拠点の充実と園児募集に向けた取り組み
 - ① おやこ教室のPRを積極的に努め、園庭・保育室開放にきた保護者への相談・支援を行う。
 - ② 園内外に向けて、本園の取り組みや魅力を広く発信していく。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	毎日子どもたちの様子や出来事、保育の進め方を話し合い、保護者からの意見や相談等を職員全員で共有し、より良い保育が行えるよう努めた。
②大学と連携した教育活動の展開	A	大阪芸術大学の専門教員による音楽指導や体育指導、柔道、お茶、作陶教室など質の高い学びを展開し日々の保育へと繋げていくよう努めた。
③実習生の育成	A	短大生、芸大生、通信教育生、卒園児等を受け入れ、指導方針を職員間で共有し、各学生の個性に応じて寄り添いながら適切な育成に努めた。
④研修や自己評価による教員の資質向上	A	外部研修の積極的な参加、附属4園での研究発表など、学びの機会を多く持った。また、年度末には自己評価を行い保育の振り返りが出来た。
2 ①園児の健康観察	A	登園時に健康観察を実施し、子ども達の様子を観察する中で体調の変化が見られた時は保護者に連絡をしたり降園時に伝えたりしている。
②感染症対策	A	・手洗いの推奨と職員室、保育室などに消毒液の設置 ・清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒 ・定期的な遊具や玩具、机やいすの消毒
③安全対策	A	・総合遊具の安全点検 ・常駐警備員と防犯カメラの設置 ・登降園時や移動時等短期大学の警備員と連携 ・避難訓練を毎月実施 ・区役所による安全講習会や消防署による消防訓練や通報訓練の実施
3 ①子育て支援	A	園庭・保育室開放や未就園児向けおやこ教室を開催し、SNS や情報誌で周知を行い、参加者との交流を積極的に持つよう努めた。
②園児募集に向けた取り組み	B	Instagramで本園の取り組みや魅力を広く発信するよう努めた。地域イベントへの参加や園内見学の随時開催により、本園の魅力を伝える機会を持つよう努めたが、園児数の増加にはつながっていない。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	・自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 ・外部研修に積極的に参加し、学びの機会を多く持つことができた。 ・大学の専門教員による質の高い学びと充実した保育内容に努めることができた。 ・実習生への指導方針を職員間で共有し、適切な指導を行い、育成目標に達することができた。 ・必要な感染対策は継続して行い、健康観察や感染症対策に努めた。 ・登降園時には園児の様子を伝えるよう心がけ、保護者一人一人とのコミュニケーションを大切に、幼稚園への安心や信頼につながるよう努めた。 ・クラスだよりや Web サイト、Instagramで園での子ども達や行事の様子を積極的に発信した。 ・未就園児向けイベントの周知を様々な方法で行ったが、更なる周知の必要を感じる。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月の避難訓練を通して、緊急時における対処法について、今後も職員間で共通認識を持ち理解を深めていくよう努めていく。 園全体の環境整備の点検や確認を行い、未然に怪我を防ぐようにしていく。
園のPRと園児数の確保	園の様子や良さが伝わるよう、Web サイトやInstagramへの写真掲載や情報公開は引き続き努力をしていく。 タウン誌などへの掲載といった広報活動も引き続き行っていく。 未就園児のおやこ教室や園庭開放・保育室開放などの開催を積極的に行い、地域の方が気軽に園に足を運んでいただけるような環境を引き続き整えていく。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 先生方に子ども達の性格をよく理解してもらえていることに安心感があるし、毎日楽しみに通っている。
- 子ども達のこと、保護者からの意見、保育の進め方などを職員全員で共有できている。
- 先生方がフレンドリーでとても雰囲気良く、バス通園では味わえない良さがたくさんある。
- 年間行事は全て良いと思っており、特に運動会は日ごろの成果が見られるので印象に残っている。
- 大阪芸術大学の先生の力を教育に活かした専門的な保育の取り組みがとても良いと思う。
- Instagramのストーリー機能を使用するなど、園の良いところをもっとアピールするべきだと感じる。
- 卒園児の保護者の方に口コミを書いてもらうことで、幼稚園に足が向くきっかけになるのではと思う。
- おやこ教室への参加は園の良い雰囲気が伝わり入園に繋がっているので、園に来てもらうきっかけが必要。
- 集団活動を不安に思わず安心して参加できること、楽しかったことを周知させると良いと思う。
- 実習生は先生方の温かく寄り添う指導により、良い実習経験ができています。
- 安全対策に関しては、気を抜くことなく保育者間で常に情報共有することが大切だと思う。
- 保育者は日々の保育に向けてそれぞれ学ばれていることを感じる。

7. 公開保育について

実施日時	令和6年11月25日（月） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園 3階ホール
保育者	あお組（年長）担当教諭
テーマ	リトミックスカーフを使って遊ぼう
指導助言者	大阪芸術大学短期大学部 保育学科 教授
参加者	小学校教諭、幼稚園園長・副園長・職員、療育施設職員、育友会会長
総評	リトミックスカーフ 1枚で、視野を広げる・協力し合う・判断する力を養うなど、コンセプトがたくさん入っていて、年長ならではの活動でした。子ども達もこれから始まる活動に期待していたように感じます。やる気を起こさせる声かけや勝負事も諦めない雰囲気作りが印象的でした。勝った相手を認め、負けた友達に声をかけることは大切で、“次へつながる負け”は小さいころから経験した方が良いと思います。普段からできることが増え、友達に認めてもらう機会を持つことで自信へと繋げてほしいと思います。子ども達の力が伸びる部分がたくさんありました。身体活動・感触あそびのどちらも含まれていて、自分で素材に触れ、遊び、十分に満足したからこそ次への活動に繋がりが広がる楽しい内容でした。